

#S2 アンドリュー篇 -T.C.4765-

俺はその頃、星団連邦軍海兵隊で少佐の地位を得ていた。
戦いの中で、他者を破壊することでしか、世界と関われない。
そんな俺に、お似合いの立場だ。
だが、同時に俺にはもうひとつの顔があった―――
好んで、二つの仮面を手にしたわけじゃあない。
俺はただ、求めていただけだ。俺が俺であることをやめず、
世界と語り合う方法を―――

#S2 アンドリュー篇 -T.C.4765-

アンドリュー：――ここが指定された地点か。
（しかし、いくらこちらに都合のいい提案だとは言え――
身分を明かそうともしない相手の呼び出しに応じなければならんとは――
いや、すべては司令の判断だ。俺は余計なことは考えずともよい。
そろそろ時間だ―――
くそ、嫌な雨だな――）

???：――――

アンドリュー：！
貴様、いつの間に――！
い、いや――あんたが約束の―――
（こいつ――まったく気配もさせず、背後に―――）

???：――――

アンドリュー：それが例の品か――

こいつは信用できるんだろうな。しかし、何故――――
お、おい――――
（くそ――――不気味な奴め、まるで幽霊だ――――
もちろん、そんなはずはないのだが。この手のなかに――――
奴から受け取ったばかりの、コネクションギアが実在するのだから――――）

アンドリュー：分隊全員、そろっているか？

U-TIC 機関員：はっ、一名の脱落ありません。総員、そろっております。

アンドリュー：よし、辺境の惑星とはいえ、ヴェクター・インダストリーの研究施設だ。
気を抜くなよ。どんなセキュリティが用意されているか、油断はできんからな。

U-TIC 機関員：了解であります！

アンドリュー：（もっとも――例の男の手引きが信用できるなら
すべてのセキュリティはこのコネクションギアで無力化できるはずなのだがな）
それでは、作戦目的を伝える。ミッションギアの M4 ファイルは、現時刻をもって、開封可能となった。
各自、その場で一読せよ。
――よし、これより突入を開始する。総員、俺に続け！

ヴェクター研究員：きゃあああっ！

U-TIC 機関員：全員床に伏せろ！

シオン：あ、あなたたちはなんなんですか！？

アンドリュー：本施設はただいまより、我々 U-TIC 機関の制圧下におかれる。
少しでも抵抗のそぶりを見せた者は、理由の如何に関わらず、その場で即刻、射殺する。
だが、抵抗さえしなければ、生命の安全は保障しよう。貴君らの協力に期待する。

シオン：――――

アンドリュー：（――よし、抵抗する者はいないようだな。
我々として、優秀な技術者をわざわざ手にかけるような真似はしたくはないからな。）
――コンラッド、いるか？

コンラッド：はい、分隊長！

アンドリュー：いまから、そのカプセルの中の兵器を起動させる。貴様は、AI から OS を吸い出せ。

コンラッド：わかりました！

シオン：なにをするの、やめて！

U-TIC 機関員：貴様、動くな！

アンドリュー：よし、起動した！

シオン：KOS-MOS！

アンドリュー：（KOS-MOS——この対グノーシス用掃討兵器の名前か？）

KOS-MOS：—————

コンラッド：なんだ——分隊長、こいつ、立ち上がりました！

アンドリュー：まさか——AI を起動させたただけだぞ。なぜ、躯体が動く！？

KOS-MOS：—————！

コンラッド：な、なんだ！ こっちへ来るな！

うぎゃああああっ！

U-TIC 機関員：た、弾が当たらん、ぐわあああ！

ヴェクター研究員 「うわ、なぜ僕まで——」

U-TIC 機関員：く、来るなああっ！

アンドリュー：くっそおおおっ！

はあっ、はあっ、なぜだ、なぜこんなことになった——

な——に————

ぐおおおおおおお！

—————こうして俺は、

かろうじて生命は長らえたものの、深い痛手を、心身に受けた。

多くの部下を失い、

負傷からの回復に数ヶ月を費やし————

ようやく、U-TIC 機関の活動に復帰できたのは、

二年近くが経過してからのことだ。

そして今——

姿は変わったようだが、紛れもない、あいつが——

今また、俺の眼前にいる。